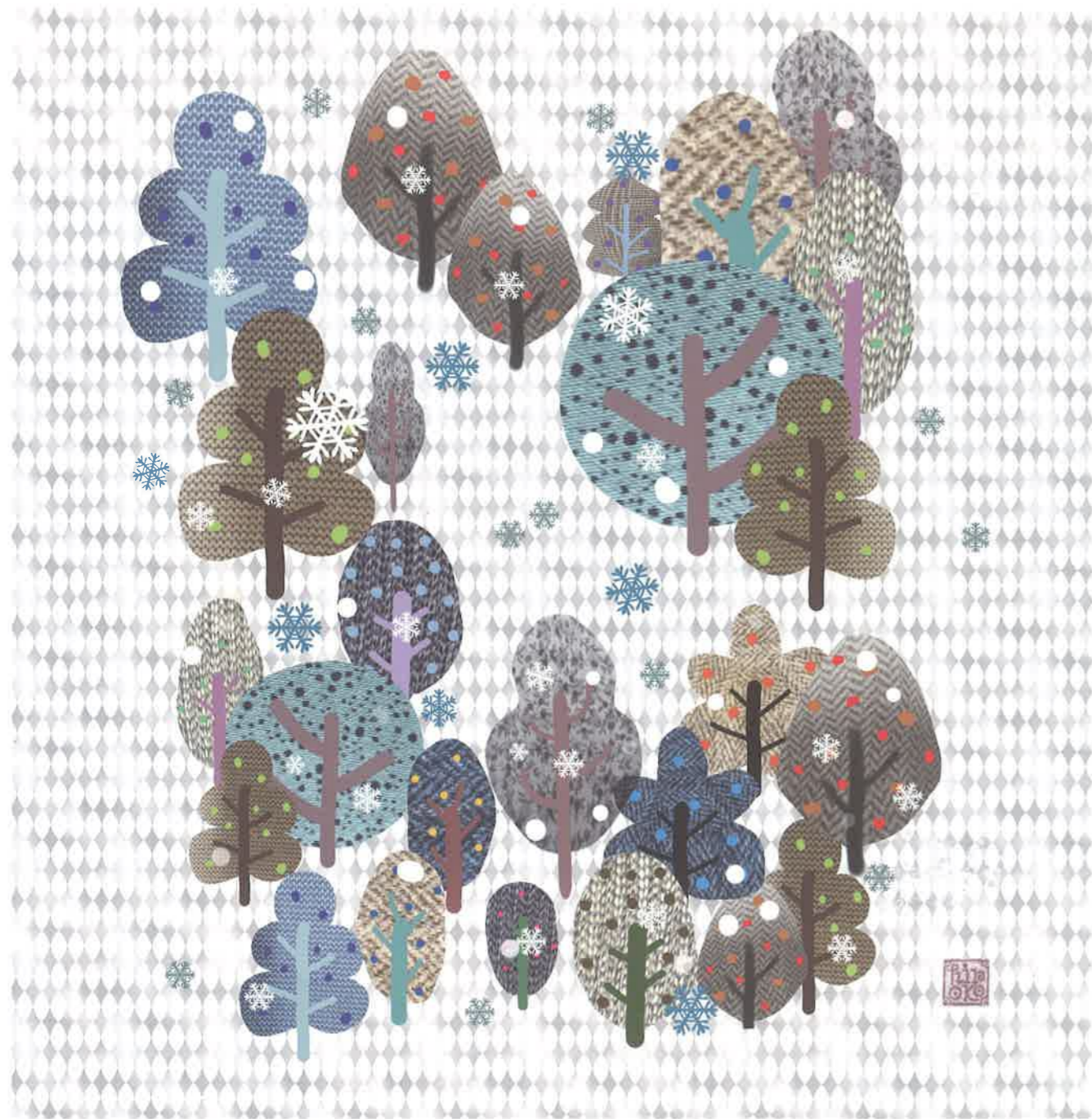




「自然や環境」のことに触れなくなったり、  
ライフスタイルを考えたりするヒントが  
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。



CONTENTS

- ◆あまピヨ「木の実と仲間探しの旅」vol.7  
「ちょっと伝えたい『竹』のこと」
- ◆情報交流コーナー：あま・あま・ポンポン  
「はじめての中央緑地」
- ◆尼崎物語vol.9  
「白髪一雄のあまがさき」
- ◆イタリア留学記 vol.3  
「道に迷って楽しむ。イタリアの小さな街、ルッカ」
- ◆What's「尼崎21世紀の森づくり？」

「環境とライフスタイルを考えるフリーマガジン」2021年10月1日発行 NPO 尼崎21世紀の森 <http://www.amashin.net/>

## 「あましん」環境活動 NEWS

2021年6月12日(土)と7月10日(土)に「あましん緑のプロジェクト」の活動として、尼崎の森中央緑地「あましん活動の森」において除草間伐活動を行いました。暑い中での作業でしたが、日頃から森づくりでご協力いただいているアマフォレストの会、尼崎の森中央緑地パークセンターの皆さんと一緒に汗を流しました。

今回除草間伐した場所は2011年に植樹したエリアで、10年前に植樹した苗木が今では背丈の2倍を越えるまでに成長しており、着実に森が育っていることが実感できました。また、植樹エリアがきれいになったことで、森の木々たちがこれからも元気に育つことを願っています。今後も定期的に除草間伐活動を行う予定であり、当金庫はこれからも森の育成に積極的に活動してまいります。

### 「あましん活動の森」 除草間伐活動



100年分の感謝を胸に、これからも  
地域のために貢献してまいります。

私たち尼崎信用金庫は、おかげさまで  
2021年6月6日に創業100周年を迎えました。

尼崎信用金庫  
AMASHIN  
<https://www.amashin.co.jp>

もっとあましん  
ずっとあましん  
100th

「尼崎21世紀の森づくり」を  
応援しています。



あましん 検索





vol.7

「厄崎21世紀の森」で生まれた「あまびヨ」が森を出て厄崎の森の仲間を紹介するよ!

あまびヨ「木の実と仲間探しの旅」

# ちよつと伝えたい「竹」のこと

突然ですが「竹」といえば何を思い浮かべますか?おいしい筍料理でしょうか。幼いころ聞いた「竹取物語」でお爺さんがかぐや姫と出会う竹やぶのシーンでしょうか。

また、写真に掲載したように竹の使い方は様々あり、端材も余すことなく再利用でき、使い方も自由。切ったり、割ったり、穴を開けたり、竹の扱い方と道具の使い方ひとつをとっても楽しいのです。竹馬や竹鉄砲で遊んだ方もいるでしょう。便利な暮らしへと変化し、日常生活において「竹」は身近な存在でなくなったかもしれません。

今回は竹の機能性や温かみとその先にある暮らしについての魅力をお伝えできればと思います!



竹細工/竹ひごを編んでつくる。マダケの皮を剥いで竹ひごをつくるのが一苦労。物をいれたり、かぶせたり、敷いたり、そのまま飾ったり。



SDGsガーデン/花みどりフェア開催時に淡路島明石海峡公園でSDGsをテーマにガーデンを施工。竹を主な材料にして人が集う空間をつくり出しました。

風車/部品もすべて竹製。風を可視化させ、自然との一体を感じさせます。



アルコールスタンド/モウソウチク、マダケ、ヤダケなど様々な種類の竹を用いて作製。コロナ対応!?

## 「身近」から「問題」へ

昔は建材や籠、玩具、皮でにぎりを包むなど様々な特性を活かして生活の隅々に竹が使われていたようです。しかしプラスチックの台頭により、竹が使われなくなっていきました。筒も輸入に頼るようになり、高齢化も拍車をかけ、竹林の管理は手つかずとなってしまいました。竹は雑木林にも地下茎で拡がり、高さも高く太陽の光を奪って木々を枯らして竹林にしてしまいます。雑木林が竹林になることで、鳥類や昆虫類など様々な生物の住処が奪われたり、管理放棄されると急斜面の場合は崖崩れの危険性を



竹ドーム/畑に置いて野菜を這わせています。グリーンドームになるかも!?

大人が入っても遊べます。布を張ったらテントになります。



## 竹の可能性

高めます。このように、淡路島を含め里山が残る地域では、生活必需品として「身近」だった竹が放置され拡大したことで、生物の暮らしを脅かす「問題」とされるようになりました。

一方で竹を資源として活かそうと様々な取り組みもされています。竹の種類によって使い方も異なりますが、粉状にして雑草除けや土質を良くする「竹パウダー」や粗く砕いて燃料に使える「竹チップ」、竹の形状と特性を活かした「竹細工・工」作、「殺菌消臭作用を活かした



プラスチックゴミでキーホルダー/前号で紹介されたキーホルダーのフレームとして竹を使用しました。



ブランコ/プレーパークにも竹が使われます。



流しそうめん/竹を半分に割って節をとって組み立て、子どもでも簡単に作業ができて楽しい。作業してから食べるそうめんは別格の美味しさ。竹は涼に合います。

## 竹の魅力とは

「竹炭」「竹酢液」「消臭剤・芳香剤」、食べて解決をしようと幼竹で国産メンマ「つくり」に励む団体もあれば、衣類やタオルに使われる「竹繊維」などもあります。多岐に渡る使われ方を見ると竹の可能性を感じます。伐採から様々な形へと利用する「入り口」から「出口」までを経験する中で大量消費の難しさも感じるようになりました。伐採には大変な労力がかかり、斜面地や密な竹林は人が入るだけでも注意が必要なほどです。竹の可能性がより見出され、多方面からの支援が広がることで竹林管理が円滑に進むことが理想ではないかと思えます。

竹細工をはじめとした竹製品は機能的であり繊細で涼し気な雰囲気がありますが、使ってみると感じる懐かしさや、時を経て移り変わる竹皮の色の変化など様々な魅力を持ち合わせており、飽きさせず愛着を抱くものばかりです。良いものをより長く大切に使うことができれば、「ゴミを減らす」とはもちろん、温かみのある生活に繋がられるのではないのでしょうか。また、写真に掲載したように竹の使い方は様々あり、端材も余すことなく再利用でき、使い方も自由。切ったり、割ったり、穴を開けたり、竹の扱い方と道具の使い方ひとつをとっても楽しいのです。竹を大量に消費することは難しくても、生活の中に自然素材を取り入れることのひとつとして「竹」が再び見直され、利用されることで暮らしも自然も豊かになればと思っています。





【尼崎物語】未来と過去をつなぐ旅

## vol.9 白髪一雄のあまがさき



昭和29年頃の木市呉服店 出典：尼崎市商工名鑑

世界的に有名な抽象画家、白髪一雄は尼崎で生まれました。私は、彼が所属していた前衛グループ「具体美術協会」に興味があったこともあって、展覧会や白髪一雄記念室を度々訪れ、なんとなく身近に感じていたのですが、彼が阪神尼崎駅の近くで育ち、生涯尼崎で暮らしたことは知りませんでした。そこで記念室でいたただいた、ゆかりの地のマップを片手に阪神尼崎駅周辺を歩いてみました。

白髪が生まれたのは1924年。生家は老舗、木市呉服店で、戦時中、疎開区域（空襲の被害を抑えるために空き地を作った）になり移転するまで、本町通り商店街（今の国道43号線）にありました。



美しい本興寺

南には運河と魚市場、東には当時の尼崎駅や市役所、西にはだんじり祭りや有名な貴布禰神社と、大変賑わいある街で幼少期を過ごしました。

戦後、今の中央商店街で再開した木市呉服店の二階に、白髪のアトリエと住居があり、そこで大作の多くが描かれました。1982年に閉店し今は別店舗になっていますが、アトリエがあった通りからは尼崎えびす神社の大鳥居も見えます。その建設発起人には白髪の父の名もあり、街の賑わいの再建に白髪家は尽力したようです。

一方で、寺町でもひととき大きな本興寺には、白髪が寄進した大作があり、毎年11月3日に公開されるそう。1420年に創建されたこの寺院は様々な歴史の舞台になり、貴重な美術工芸品を多く所蔵、戦国時代から江戸時代初頭に建てられた開山堂・三光堂・方丈が重要文化財になっています。訪れたのはとても暑い日でしたが、気持ちやすっと涼しくなる空気が流れていて、本当に美しい空間でした。ここでも、蝋燭台や灯籠に白髪の名が残り、一家



白髪一雄記念室

の関わりの深さを感じられます。蓬川（与茂川）や阪神電鉄の旧発電所、尼崎運河など、今も変わらない場所の絵画も、白髪は沢山残しています。これらの複製画は尼崎市総合文化センターの階段ホールでも見ることができ、記念室で展示されていない時は要チェックです。彼が描いた尼崎を探して歩くのも楽しいですね。

天井に固定したロープにぶらさがり、床に置いたキャンバスに足で描くという、独特でダイナミックな作風は、けんか祭りとも呼ばれる尼崎のだんじりから影響を受けたようですが、本人はとても穏やかな人柄だったそう。市の教育委員も務め、文化芸術振興に尽力しました。私も、荒々しい、激しいという印象が強い彼の絵に、静謐さや神秘性を感じて、ハッとすることがあります。街中に残る本興寺の静けさや、裕福な家に育った生い立ちなどに、その一面の由来があるのかもしれない。

今回参考にした「ボクの尼崎マップ」はウェブサイトでダウンロードでき、バーチャルツアーも公開されています。また、彼の名を冠した白髪一雄現代美術賞の第一回募集も始まっています。尼崎を愛した白髪の遺産は、ますます街を豊かにしてくれそうです。

文・写真 横山 知代子 / ご協力 辻川 敦氏(尼崎市立歴史博物館地域研究史料室)

【尼崎21世紀の森：情報・交流コーナー】

# あまあまポン

このページでは「尼崎21世紀の森づくり」の活動の様子をお知らせします。



## 初めての中央緑地

100年かけて森をつくる「尼崎21世紀の森」。今回はそんな森づくりに興味を持った大学生が尼崎の森中央緑地に初めて訪れた時の感想をレポートします。

### 尼崎の森中央緑地に初めて来訪

尼崎市の臨海部、国道43号線以南の約1000haの地域が進められている「尼崎21世紀の森」。そして、その中心に位置する尼崎の森中央緑地ですが、尼崎市民である私は今まで訪れる機会がありませんでした。しかし、その森づくりに興味を引かれ、定期的に開催されている植樹活動に参加してみました。

### 野の花Laboに参加

今回参加したのは、「野の花Labo」という、今年の4月から始まった、中央緑地の大芝生広場や森づくり活動エリア内で野草を植栽する活動です。今回は秋の七草の中から、カワラナデシコ、オミナエシ、キキョウの植栽を行いました。朝9時45分開始、まずはパークセンター

内で今回植栽する野草についてのお話や植栽方法をレクチャーしてもらい、植栽を行う大芝生広場に移動します。初めて見る大芝生広場の迫力は圧倒的で、尼崎にこんなにもきれいな空間が広がっていることに感動します。

### 植栽体験

活動場所に到着し、いよいよ植栽開始。参加者は20名程度、そのほとんどが「アマフォレストの会」の方々ですが、親子で参加するなど、森づくり活動に初めて参加する方もいました。経験のない私は緊張しながらの参加でしたが、思っていたよりも簡単な作業であること、また植樹経験のある方々が優しく教えて下さったことで、気づけば夢中になって植えていました。小学生くらいの子どもたちも楽しそうに植えていましたが、途中から昆虫探しに夢中になっていく姿はとても微笑ましいです。

活動を通して、野草の植栽なので体力や経験に関わらず参加しやすく、親子連れの方や初心者の方も楽しめる内容でした。この美しい大芝生広場の景観の一部を作れたという感動を味わうことができました。



植栽前の様子。目印があり植える場所がわかりやすい。



植栽後の様子。自分たちで植えたので達成感を感じられる。



大芝生広場の様子。昼頃になりテントが多く賑わいがある。



パークセンターの屋上からの景色。大芝生広場や森を見渡すことができる。

### 大芝生広場の様子

活動終了後、お昼頃になり、大芝生広場ではテントを持ち込んで休憩する人、ボール遊びをする人、虫取りをする人など、多くの人が利用していることに驚きました。

尼崎市の臨海部にこんなにも美しい広場を持つ公園があること、また市民の手によって作られ、多くの市民に愛され利用されているということにとっても感動した。

文・写真 石田 麟(大阪府立大学生命環境科学地域環境科学類)



尼崎臨海部にかつての**自然環境=美しさ**を取り戻したい。  
日本の**発展を支えてきた誇り**を取り戻したい。  
かつてこの地に存在した**人間の活気**を取り戻したい。

そんな願いを込めて、平成14年3月に  
『**尼崎21世紀の森構想**』は、策定されました。それが尼崎市全体に  
美しさと誇りと活気を取り戻すきっかけになれば、という希望を持って。

**江戸時代**  
この尼崎には尼崎城という江戸幕府の直轄地であった、大坂の西の玄関口を守る重要拠点があったのをご存知ですか？

**明治の初め**  
この瀬戸内海が「世界で最も魅力的な景観」と絶賛されていたのをご存知ですか？

**明治から昭和**  
高度成長期の尼崎  
高度成長期の尼崎  
この尼崎臨海地域が関西の重化学工業の中心集積地として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担っていた事をご存知ですか？

**昭和40年代**  
この尼崎市が国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、「公害のまち」という不名誉な称号を与えられた事をご存知ですか？

**近年**  
巨大工場が建設され臨海部での産業の活性化に期待が高まるも、急激な社会の変化により、尼崎のロケーションだけを最大限に活かしたロジスティクス化していることをご存知でしょうか？

**これから『尼崎21世紀の森構想』**  
かつての**自然環境=美しさ**  
日本の**発展を支えてきた誇り**  
**人間の活気**を取り戻したい。

一緒に尼崎21世紀の森づくりをしませんか！  
編集スタッフを募集しています！

「環境とライフスタイル」を考えるフリーマガジン

エイ・エイ：2021年21号(10月1日発行)  
NPO尼崎21世紀の森 Aa 編集局  
ホームページ <http://ama21mori.net/>  
〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F  
TEL 090-8233-4079

Chief Editor 岸本 幸三  
Editor/Writers 池田 和也 木崎 詩恵 森井 敬介  
石田 麟 岡本 佳奈 森上 恒  
薄井 洋一 中岡 禎雄 山本 仁湖  
枝川 利雄 守 宏美 横山知代子  
Designers 児玉 泰江 鳥山 大樹 ヒロコ・TG  
杉本さやか 田万まどか

Print ウニスガ印刷(株)

環境改善を利用した先進的な「まちづくり」  
それがこの『尼崎21世紀の森構想』の本質です。  
ナカナカ素敵な計画だと思いませんか？  
100年間のこの計画、進めて行けるのは、  
この尼崎が大好きな一人ひとりの市民、企業の皆さんなのです。

あごがき  
はじめまして、淡路島にある大学院でランドスケープについて学んでいる学生です。今回ご縁があって竹の紹介をさせて頂くことになりました。  
都市の生活ではなかなか竹に触れる機会は少ないですよね。でも思い返すと、学校の竹箒や神社の柄杓、竹垣など、ただ竹が使われている場所を見つけれられるかもしれません。今流行りのモルックは木で作られています。竹でもできるかもしれませんね。森と竹林はどちらも「適切な管理」と楽しみながら「活用」することが大切であるところに、尼崎21世紀の森づくりと通ずる点があると思っています。これからの森づくりもとても楽しみです。

(木崎詩恵)

ITALY



サン・ミケーレ・イン・フォロ教会  
小道を抜けると途端に現れるおおきな教会。重厚なたたずまいと、細部にわたる緻密な彫刻造りが圧巻です。



ルッカの城壁  
ルッカ市を囲む城壁は、かつて敵対したフィレンツェなどから都市を守るために造られました。幸運にも、これまで一度も外部からの攻撃を受けなかったため長い年月を経た現在まで当時の城壁が残っています。城壁の上は道が整備されており、歩きながら市街地を一望することができます。

「道に迷っても死にはしない。地図に夢中で下ばかり見るくらいならそこでカフェしてる奴に聞け。」私の友人は、それがそが、ルッカを歩く醍醐味だと誇らしげに語ったのでした。住民の生活の息遣いを感じ、残されてきた歴史の断片を集めるように街を散策することができる、小さいながらも魅力のたくさん詰まった都市です。



Ciao!  
Reporter  
山本 仁湖

イタリア中部の都市フィレンツェで10ヶ月間の留学を経験。地元尼崎市の運河で行ってきた環境活動を活かし、新たな知見を広げるため、イタリア環境保護団体「LIPU」で4カ月間のインターンシップにも参加しました。



ルッカの小道



グイニージ塔から見下ろしたルッカの街並み

「イタリア」と聞くと皆さんはどんな言葉、風景をイメージするでしょうか。緑白赤の国旗、ピザ、情熱の国…「Mangiare」  
「Cantare」「Amare」はそれぞれ「食べて」「歌って」「愛して」人生を謳歌するイタリア人らの人生観を表現するために使われる言葉です。ここでは私がイタリア留学で見た、そんな彼らのライフスタイルや文化についてお話します。

道に迷って楽しむ。  
イタリアの小さな街、  
ルッカ

イタリア留学記 vol.3



皆さんはイタリアと聞いてどの都市を思い浮かべるでしょうか。ローマ、ミラノ、ナポリ、ヴェネツィア…ガイドブックに載っているような都市は数多く、世界でも最も世界遺産の多い国でもあります。しかしイタリアの魅力はそれだけではありません。少し足をのびた先にある小さな街では、その土地特有の風景を堪能したり、そこに住む人々の温かみを感じることができるといえます。今回はそんな小さな街「ルッカ」という街をご紹介します。

ルッカはイタリア中部、西側の地中海に面するところにあります。旧市街地であるルッカ市は現在でも中世の美しい街並みを残しており、古代ローマ帝国時代から17世紀の間に築かれた分厚い城壁に囲まれています。その内側に残された街並みを歩けば、まるで過去にタイムスリップしたかのような世界観とゆっくりとした時間の流れを感じることが出来ます。

ある日、ルッカで生まれ育った友人に「ルッカの見どころはどこか」と尋ねてみました。友人は「有名な「グイニージの塔」かな。塔の上から一望できるルッカの街並みは最高だよ！あとは、「円形劇場広場」！それと…とにかくかの有名な場所を挙げたあと、最後にこう付け足しました。「地図を見ないこと。どっぴりうことか聞き返そうとした時、友人は案の定意味が理解できていないと笑いながら「道に迷えばいいんだよ。」と教えてくれました。

城壁に囲まれたルッカでは、とても細い道が網目状にいくつも重なり合い、ひとたび街を歩いてみると大きな迷路に迷い込んだような錯覚に陥ります。しかし、ふと入り込んだ道の先には小さく趣のある雑貨屋が並んでいたり、地元の住民たちがカフェを楽しんだり、思いがけない発見があるのです。「道に迷っても死にはしない。地図に夢中で下ばかり見るくらいならそこでカフェしてる奴に聞け。」私の友人は、それがそが、ルッカを歩く醍醐味だと誇らしげに語ったのでした。住民の生活の息遣いを感じ、残されてきた歴史の断片を集めるように街を散策することができる、小さいながらも魅力のたくさん詰まった都市です。

皆

皆さんはイタリアと聞いてどの都市を思い浮かべるでしょうか。ローマ、ミラノ、ナポリ、ヴェネツィア…ガイドブックに載っているような都市は数多く、世界でも最も世界遺産の多い国でもあります。しかしイタリアの魅力はそれだけではありません。少し足をのびた先にある小さな街では、その土地特有の風景を堪能したり、そこに住む人々の温かみを感じることができるといえます。今回はそんな小さな街「ルッカ」という街をご紹介します。